

運動疫学 ニュースレター



令和2年9月10日発行 No.14

COVID-19 流行下で何ができるか

日本運動疫学会理事長／東京医科大学 井上 茂

新型コロナウイルス感染症が私たちの生活に影響を与え始めて約半年が経ちました。日本運動疫学会では7月の学術総会、8月の運動疫学セミナーが中止となり、交流を楽しみにしている会員の皆様は物足りない日々をお過ごしではないかと思えます。しかしながら、こんな時だからこそできることがあるのではないかと、各委員会を中心に様々な活動が始まっています。4月18日（土）には公式声明委員会が「新型コロナウイルス感染症流行下の身体

活動不足・座りすぎ対策」をまとめてくださいました。この声明に関する反響は大きく、運動に関する声明として各所で引用されています。9月9日（水）にはWHOのFiona Bull先生とスポーツ庁の鈴木大地長官をお招きし、2020横浜スポーツ学術会議公開講座を企画しました。また、学術委員会、セミナー委員会が中心となりオンラインセミナーの企画を実施します。まずは試行的なものですが定期的なセミナーの開催を視野に入れています。

コロナ禍での不活動が問題となり、身体活動・運動に関する関心が高まっています。日本運動



疫学会を使って議論を深め、様々な情報発信をしていただけたらと思います。会員の皆様には、そうした活動のご提案やご参画をぜひお願いします。

第23回日本運動疫学会学術総会延期のご報告

第23回学術総会 大会長／武庫川女子大学 内藤 義彦

2020年4月、井上理事長から学会員の皆様には電子メールにより、7月に予定されていました第23回運動疫学会学術総会の中止と延期のお知らせがありました。当初は、暑くなれば新型コロナウイルス感染症(COVID-19)蔓延も下火になると期待したところもありましたが、現時点は当初の予想を越えて感染拡大傾向です。

現在、来年の適切な時期に、第23回運動疫学会学術総会を武庫川女子大学において改めて開催すべく学会事務局と調整しております。その際、今後のCOVID-19の流行状況の変化に対応す

べく、現地開催とWeb開催（場合によっては折衷）の両方式からの準備を進めたいと考えています。

また、学会のプログラムの内容は、当初予定していたものを基本としますが、COVID-19の流行による社会の大きな変化をふまえた内容のものを加味したいと考えています。新しい開催要項が決まりましたら、改めてご案内いたしますので暫しお待ちくださるようお願いいたします。

最後に、COVID-19蔓延の一刻も早い終息とともに、先生方のご健勝とご研究の益々のご発展を心よりお祈りい

たします。



CONTENTS

1. COVID-19 流行下で何ができるか……1
2. 第23回日本運動疫学会学術総会延期のご報告……1
3. 編集委員会活動を振り返って……2
4. 学術委員会活動を振り返って……2
5. プロジェクト研究委員会活動を振り返って……2
6. セミナー委員会活動を振り返って……3
7. 公式声明委員会・総務委員会活動を振り返って……3
8. 広報委員会活動を振り返って……4
9. コロナ禍の学会活動について……4

編集委員会活動を振り返って

編集委員会委員長／筑波大学 中田 由夫

2015年から2期5年間にわたり、編集委員会委員長を務めさせていただきました。学会誌の発行は、学会活動の中でも特に重要な活動のひとつであり、「運動疫学研究」の魅力を高めるために、様々な取り組みを進めてきました。介入研究によるエビデンス論文の募集、二次出版論文の掲載、編集委員会特集企画、J-STAGEへの収載、

優秀論文賞・優秀査読者賞の表彰制度の創設などです。また、投稿から1st decisionまでの平均日数を公開し、迅速に査読が進むことをアピールしてきました。このような編集委員会活動に対してご協力いただいた、編集委員会の先生方、査読にご協力いただいた先生方、投稿いただいた先生方に感謝いたします。今後の課題としては、安

定して、より多くの投稿論文を集められるような体制整備、企画立案とともに、会員の先生方おひとりおひとりの、より一層の「運動疫学研究」へのご協力が不可欠だと考えております。



学術委員会活動を振り返って

学術委員会委員長／東北大学 門間 陽樹

2017年10月から始まった現在の学術委員会は、この9月で任期を終えます。前委員長の安藤大輔先生（山梨大学）のあとを引き継ぎ、9名の委員の先生方とともに、学術総会や他学会での企画提案を実施して参りました。特に、この3年間は疫学研究の草の根を広げることを目的に、運動・スポーツ分野における疫学手法の普及・啓蒙を目指し、さらに、若い世代を意識した

活動に力を入れ、取り組んで来ました。おかげさまで多くの方に聴いてもらうことができ、3年前と比べると疫学手法の重要性は認識されつつあるように思います。しかし、疫学の市民権を目指す時代は終わりです。これからは運動・スポーツ分野をリードし、さらに、ほかの疫学分野と勝負する時代に来ていると思います。次期の学術委員会には、これまでの方針とは対照的

な活動にぜひ力を入れて取り組んでいただきたいと思います。最後に、これまで若輩者の委員長を支えてくださり、多くの魅力的な企画を提案してくださいました学術委員の先生方にこの場を借りて御礼申し上げます。



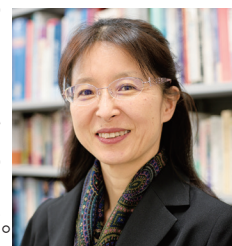
プロジェクト研究委員会活動を振り返って

プロジェクト研究委員会委員長／慶應義塾大学 小熊 祐子

初代の種田行男委員長より引き継ぎ、二期プロジェクト研究委員会委員長をさせていただきました。その間、ほぼ1年に1件の申請があり、承認されてきました。現在のところプロジェクト研究全5件のうち1件が終了、残りの4件が研究を継続しています。成果は素晴らしいプロジェクト研究がエントリーされ進んでいること、反省点

は、当初の計画通りに進められている研究が希少なことです。これは委員長として大いに反省している点であり、計画当初のモチベーションを維持し、計画通りに研究を遂行できるよう、委員会がサポートする体制が必要です。是非次期委員会には、この点に留意していただきたいと思います。プロジェクト研究に承認されると、自然と研究

が進む、それがメリットになるようにできないか、と今更ながら考えています。委員の皆様、今まで支えてくださり、誠にありがとうございました。



セミナー委員会活動を振り返って

セミナー委員会委員長／東京都健康長寿医療センター研究所 笹井 浩行

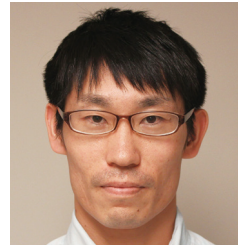
前委員長の北畠義典先生（埼玉県立大学）よりバトンを受け、2017年10月から3年間セミナー委員長を拝命しました。その間、第19回を宮城蔵王、第20回を箱根で開催しました（第21回は中止）。

在任中は伝統や形式を受け継ぎつ



つ、新たな試みを多く採り入れました。例えば、非会員の受け入れと、会員と非会員の受講料差の設定です。運動疫学の裾野を広げつつ、会員利益を保てるよう配慮しました。その他、セミナー中のグループ課題の事前設定、セミナー開始早期のグループ分け、セミナー後の評価調査の導入、参加者募集webフォームの運用、配布資料のペー

パーレス化、共有フォルダを活用したノウハウ蓄積を実現しました。一方で、実践家向けコースの設置や「新しい日常」におけるセミナー運営が大きな宿題となったことが心残りではありません。



最後に、委員会運営にご尽力いただいた委員の先生をはじめ、学会関係者の皆様、何より受講生の皆様に心より感謝申し上げます。

公式声明委員会・総務委員会活動を振り返って

公式声明委員会・総務委員会委員長／早稲田大学 澤田 亨

1. はじめに

それぞれの委員会で、すばらしい委員の先生方と一緒にいくつかの課題に取り組みました。任期を終えるにあたって、この2年間で、それぞれの委員会で取り組んだ内容を紹介させていただきます。

2. 総務委員会

1) 委員：大田崇央（日本体育大学）、川上諒子（早稲田大学スポーツ科学学術院）、橋本有子（お茶の水女子大学教学IR・教育開発・学修支援センター）、宮本瑠美（亀田総合病院スポーツ医学センター）、渡邊夏海（東京YMCA 社会体育・保育専門学校）

2) 活動内容：総務委員会では、関連学会の状況調査と利益相反指針の作成に取り組みました。関連学会の状況調

査については、本学会の運営の参考資料として利用していただくことを目的に、51の関連学会の状況を一覧表にまとめました。また、利益相反指針については、本委員会で作成した指針を次期体制から使用していただくことになると思います。

3. 公式声明委員会

1) 委員：國井実（セントラルスポーツ株式会社）、桑原恵介（帝京大学大学院公衆衛生学研究科）、丸藤祐子（医薬基盤・健康・栄養研究所）、山本直史（愛媛大学社会共創学部）、神野宏司（東洋大学ライフデザイン学部）

2) 公表した声明：2020年4月18日（土）に内藤義彦監事からの提案を受けて、國井実先生が中心となって、新型コロナウイルス感染症対策に関す

る声明を発表しました。本声明は厚生労働省の健康情報ホームページにも掲載していただくこ

とができ、外出自粛の要請にともなう身体活動不足や座りすぎによる健康被害の予防に役立てていただくことができたかも知れないと考えています。

4. 委員長交代に向けて

それぞれの委員会でいくつかの課題に取り組むことができました。それぞれの委員のみなさまに改めて御礼申し上げます。新しい委員会がますます本学会に貢献されることを祈念しております。



広報委員会活動を振り返って

広報委員会委員長／東海大学 久保田 晃生

2015年9月に広報委員長を萩裕美子先生から引き継ぎ5年が経過しました（意外と長いです）。この間、年2回、第5号から第14号までのニュースレターの作成を中心に取り組んできました（ご執筆頂いた先生方、頼りになる広報委員の皆様、ありがとうございました）。学会によってはPDFをメールで届けるところも多い中、本学

会は、学会活動を身近に感じて頂けること、手に取ってもらい読んで頂くこと、紙媒体で会員へ届けることに拘って進めてきました（紙質も重要ですね）。また、新規会員獲得の広報活動は、広報委員が関係する諸団体へ、ニュースレターを積極的に配布することで進めてきました（経費をかけない広報活動です）。本学会は、意欲

のある会員も多い魅力的な学会だと思いますので、さらに積極的な広報活動で、新規会員（仲間）を増やしていければ幸いです（5年間ありがとうございました）。



コロナ禍の学会活動について

日本運動疫学会事務局

- ・公式声明「新型コロナウイルス感染症流行下の身体活動不足・座りすぎ対策」をプレスリリースしました。
- ・慶應スポーツSDGsシンポジウム2020～新常态における持続可能なスポーツ・身体活動～の後援をしました。
- ・2020横浜スポーツ学術会議公開講座（COVID-19新常态における持続可能な身体活動・スポーツ）の企画・協力をしています。※学術会議は2020年9月8日（火）から22日（火）にオンラインで開催。公開講座は9月9日（水）15:30-17:00、東京とジュネーブを繋ぎライブで実施。WHOのFiona Bull氏が「世界保健機関 身体活動に関する世界行動計画2018-2030」、スポーツ庁

長官の鈴木大地氏が「Sport in Lifeと日本の現状、今後について」について講演を行った後、「スポーツ・身体活動と持続可能な到達目標」について対談。本学会の井上茂理事長と小熊祐子理事が進行役です。本学会実行委員の難波秀行氏、桑原恵介氏の多大な尽力に感謝申し上げます。

- ・第23回学術総会（武庫川女子大学大会長 内藤義彦先生）は2021年度に延期になりました。
- ・第21回運動疫学セミナーは中止になりました。
- ・第6回運動と健康：分野横断型勉強会は中止になりました。
- ・新企画：会員向けオンラインセミ

ナー『新型コロナウイルス感染症と身体活動』を学術委員会ならびにセミナー委員会の合同企画として開催。オンラインセミナーは9月16日（水）14:00-16:00にZoomで実施。主な内容として、東京医科大学公衆衛生学分野・日本学術振興会の天笠志保氏が「新型コロナウイルス感染症と身体活動～with コロナ時代を見据えた現状～」というタイトルで講演を行った後、参加者によるグループディスカッションの実施。今後、定期開催に向けて検討しています。

※学会活動に関しては、学会ホームページ、メーリングリストを通じて随時情報提供しております。

日本運動疫学会の最新情報は公式ホームページを確認してください。公式HP：<http://jaee.umin.jp>

- ・会員の投稿論文を募集しています。
- ・会員の運動疫学研究を支援しています（セミナー、勉強会）。
- ・新規会員を随時募集しています。



発行：日本運動疫学会
編集：日本運動疫学会 広報委員会
日本運動疫学会事務局
〒160-8402 東京都新宿区新宿 6-1-1
東京医科大学公衆衛生学分野
E-mail:jaee.info@gmail.com